

# 第4章 運営計画

## 1 管理運営の考え方

総合文化学習センター（仮称）は、市民やボランティアなど多くの人々の協働による運営を目指します。また、企業、大学、他都市等との連携を進め、様々なネットワークの構築を通し、魅力ある事業企画を行い、市民に親しまれる施設を目指します。このため、各機能が最も効果的に発揮されるよう、「積極的な事業展開を行うのに適した管理運営」を基本とします。

### （1）柔軟な発想による運営方式

総合文化学習センター（仮称）は、学びと芸術文化活動の拠点施設として、「新たな交流と学習の場」「新たな創造と発信の場」「新たな協働と連携の場」となることを目指しています。こうした役割を果たしていくためには、その自主的な活動を確保するとともに、その専門性を十分考慮しながら、利用者の利便性や快適性を高め、市民ニーズに応じていく必要があります。

こうした視点から、事業展開や管理運営に当たっては、その機能を十分に発揮するため、市民との協働や（財）豊橋文化振興財団への委託、PFI方式、指定管理者制度等、様々な運営方式を想定するなど、柔軟な発想による検討を進めます。

### （2）長期的な視点と市民意見の反映

事業実施に当たっては、その目標をしっかりと見据えるとともに、それぞれの目的と成果を絶えず検証しながら、新たな事業展開に生かしていく姿勢が必要です。

このため、長期的な視点を持ち、市民や利用者の意見を十分に反映させる仕組みと将来を共に考えることができる組織づくりを目指します。

### （3）柔軟で弾力的な施設運営

開館時間については、通勤・通学者の利用時間や周辺店舗の営業時間等を十分考慮し、利用者の利便性に配慮して設定します。また、諸室によって、望まれる利用時間や利用期間が異なる場合もあるため、柔軟で、弾力的な施設運営を目指します。

## (4) 利用者支援

誰もが気軽に安心してこの施設を利用することができるように、また、誰もがいつでも学習や芸術文化活動を享受できるように、利用案内の充実、託児環境への配慮など、様々な利用者支援の仕組みを整備します。

## 2 組織

総合文化学習センター（仮称）は、様々な分野の専門スタッフが必要ですが、一体的な運営による相乗効果を最大限に発揮し、施設を効率的に運用できるよう、施設全体を一つの組織によって運営することが必要です。そのためには、学習・図書館・芸術文化など様々な行政施策を包括し、一体的に推進できる体制が必要です。また、学習や芸術文化の専門的意見、市民の意志などが、それぞれ反映される組織体制を目指すとともに、大学、民間等との協働・連携体制の確立を目指します。

### (1) 専門スタッフの確保

職員体制については可能な限りスリム化を図りますが、総合文化学習センター（仮称）が積極的な事業を展開し、市民活動を支援するためには、優秀な専門スタッフや事務スタッフの配置が必要です。また、全体を統括するコーディネーターや生涯学習、図書館、芸術文化の専門家を配置するなど、事業実施と施設の活用に関し、知識や経験の継承など運営の連続性と安定性を考慮するとともに、最新の学習・芸術文化や技術の動向に対応できる機動性の高いスタッフ体制を構築する必要があります。さらに、地域の指導者をこの施設から育成し、輩出するという役割も重要です。

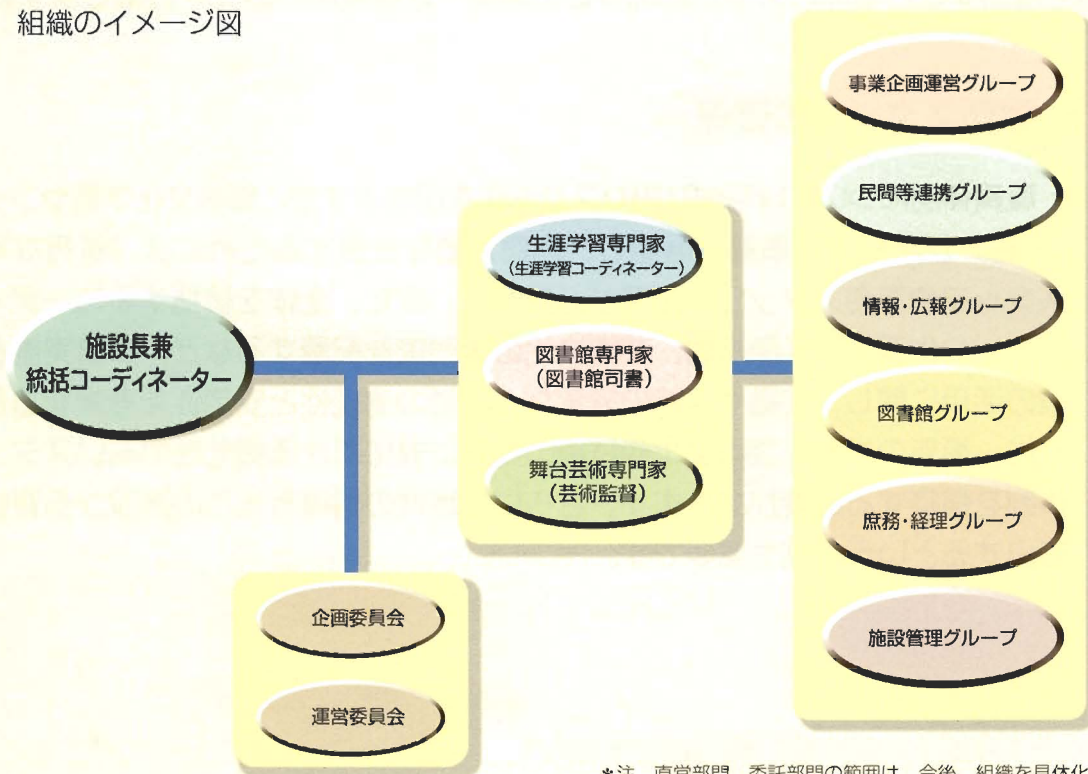
## (2) 市民協働体制の構築

総合文化学習センター（仮称）の事業に市民意見を反映する仕組みを持つとともに、市民との協働によって多様な事業を実施します。また、市民の自主的な企画・運営により実施される事業の拡大を期待して、専門スタッフによる事業企画や運営について可能な限り公開し、その経験の継承を図ります。さらに、意欲と経験、専門的知識を持つ市民が、事業運営に参画することを期待し、担当する事業の範囲やその責任範囲などを明確にして具体的に参画できるシステムを用意します。

## (3) 大学や民間などの参画によるマネージメント体制の確立

現在、生涯学習の分野で重要な役割を果たしている大学、民間等との連携を深め、講座事業・創造事業の実施や民間の経験・知識を生かした運営への参画を進めます。また、施設・設備等の維持管理や事業実施を効果的に遂行するため、様々な参画方式を検討します。

組織のイメージ図



\*注 直営部門、委託部門の範囲は、今後、組織を具体化する中で検討していきます。